国土交通省 関東地方整備局
Ministry of Land, Infrastructure and Transport Kanto Regional Development Bureau

記　者　発　表　資　料

利根川水系渇水対策連絡協議会分科会開催される

利根川水系渇水対策連絡協議会（会長：北橋建治関東地方整備局長）は上流ダム群の貯水状況と最近の水質事故の状況について情報提供するため、平成２０年３月１９日（水）に分科会を開催しました。

●上流ダム群等の貯水状況と今後の見通し及び対策

利根川上流８ダムは、昨年１１月からの平野部での少雨等により、河川の流量が低減し、例年より１０日程度早い１２月１日から補給を開始しました。

３月１８日０時現在の貯水量は、１億９，１７６万m³、貯水率４２％、平年の８２％となっています。

現在までに、利根川上流８ダムから最大で日量約３５０万m³、合計約１億７，３６４万m³の補給（冬期としては平成４年以降で３番目に多い量）を実施するとともに、北千葉導水路等の効率的な運用を図り、河川に必要な流量の確保に努めております。今年は水源地域の奈良俣ダム・尾瀬沼地点の最大積雪深が平年並以上の積雪となっており、今後、降雨や融雪により奥利根５ダム等は満水になると予想しています。なお、融雪の少ない下久保ダム、草木ダムについては今後の降雨状況によっては、貯水量が不足することも考えられます。

今後ともダムの貴重な水を有効に利用しつつ、北千葉導水路等の下流の施設も活用し、河川水に不足が生じないよう適切な水運用を行っていきます。

●最近の水質事故の状況

平成２０年２月より継続している利根川上流部湯の小屋沢の旅館を発生源とする油流出事故や渡良瀬川支川秋山川に発生している１．４ジオキサンの水質事故について報告し、今後注意するよう関係機関に周知しました。

《ダム貯水状況》
・利根川上流８ダム（３月１８日０時現在）
　貯水量：１億９，１７６万㎥、貯水率：４２％、平年比：８２％
・鬼怒川上流３ダム（３月１８日０時現在）
　貯水量：１億３，４６１万㎥、貯水率：７５％、平年比：９９％

※　ダムの貯水量及び貯水率の情報を、電話応答サービスにより、リアルタイムに提供しています。どうぞご利用下さい。

・利根川上流８ダム		電話番号	027－255－5692
・鬼怒川上流３ダム	五十里ダム	電話番号	0288－78－0440
	川俣ダム	電話番号	0288－96－0288
	川治ダム	電話番号	0288－78－0908

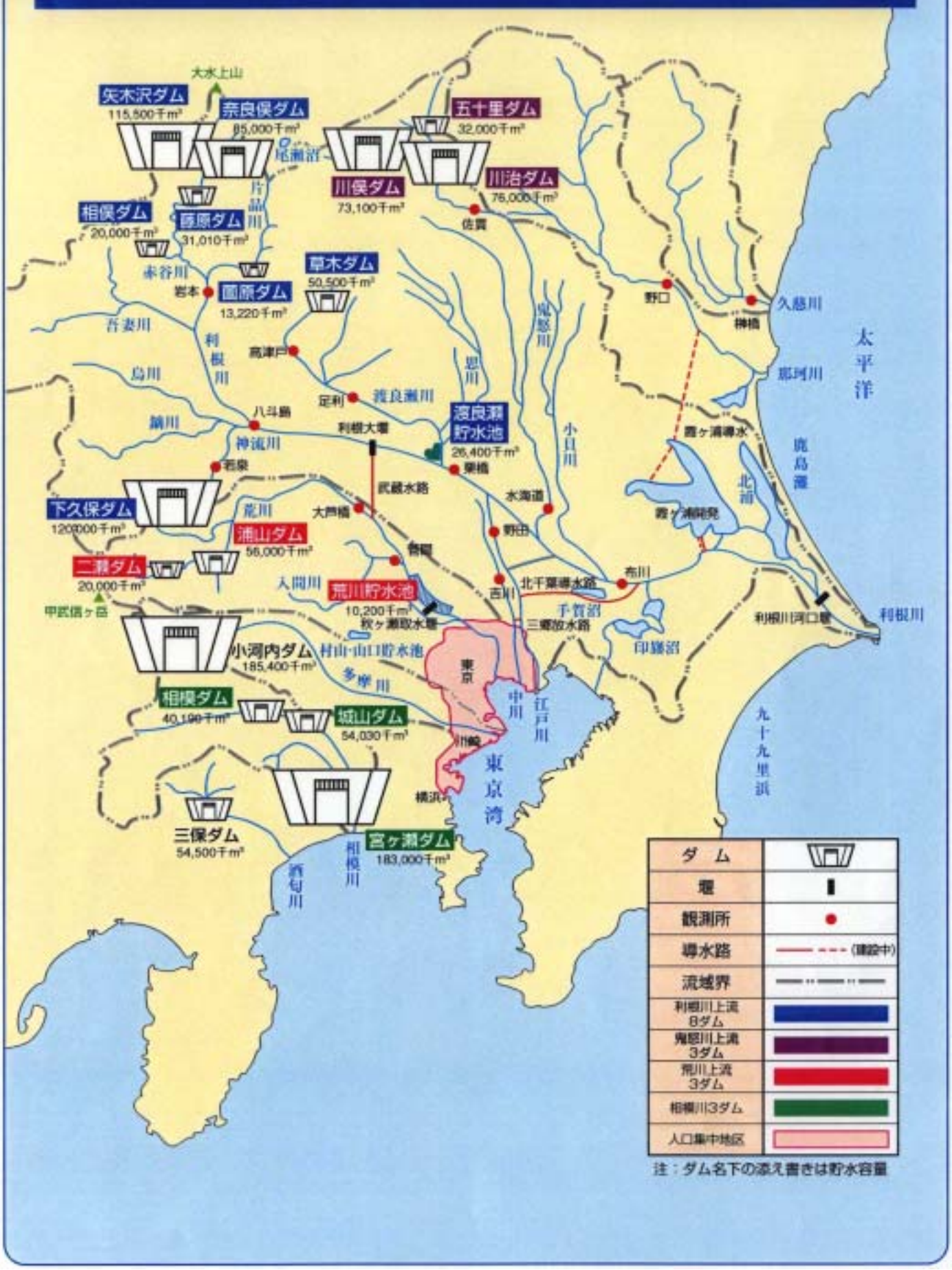
※　ホームページでもダムの情報をお届けしています。
http://www.ktr.mlit.go.jp/（首都圏の水資源情報　他）

平成２０年３月１９日（水）
利根川水系渇水対策連絡協議会（事務局：関東地方整備局）

発表記者クラブ
埼玉県政記者クラブ、竹芝記者クラブ、横浜海事記者クラブ、神奈川建設記者会、東京都庁記者クラブ、千葉県政記者会、茨城県政記者クラブ、栃木県政記者クラブ、刀水クラブ

問い合わせ先	
国土交通省　関東地方整備局　河川部	
〒330-9724　埼玉県さいたま市中央区新都心2-1	水政調整官　塚　本(内線)3515
電　話(代　　表) ０４８－６０１－３１５１	水政課長　小　島(内線)3551
(水政課夜間直通) ０４８－６００－１３３４	河川環境課長　富　岡(内線)3651
(河川環境課夜間直通) ０４８－６００－１３３６	河川環境課長補佐　林　(内線)3652

関東地方の主要な河川と水資源開発施設



注：ダム名下の添え書きは貯水容量

上流ダム群等の貯水状況と今後の見通し及び対策

奈良俣ダムのダム湖状況（平成２０年３月１８日撮影）

平成２０年３月１９日

関 東 地 方 整 備 局

1.利根川上流ダム群等の現状

1)　利根川上流８ダムは、冬期の少雨のため平成４年以降で３番目に多い補給

①　栗橋上流域の１１月から２月までの４ヶ月間の流域平均降水量は、１５７㎜で、S23からH19までの60年間平均降雨の約８４％となり、少雨傾向でした。これらの影響から、利根川上流８ダムは平年よりも１０日程度早い平成１９年１２月１日から補給となり、最大で一日当たり約３５０万m³、合計約１億７，３６４万m³の補給を行いました。

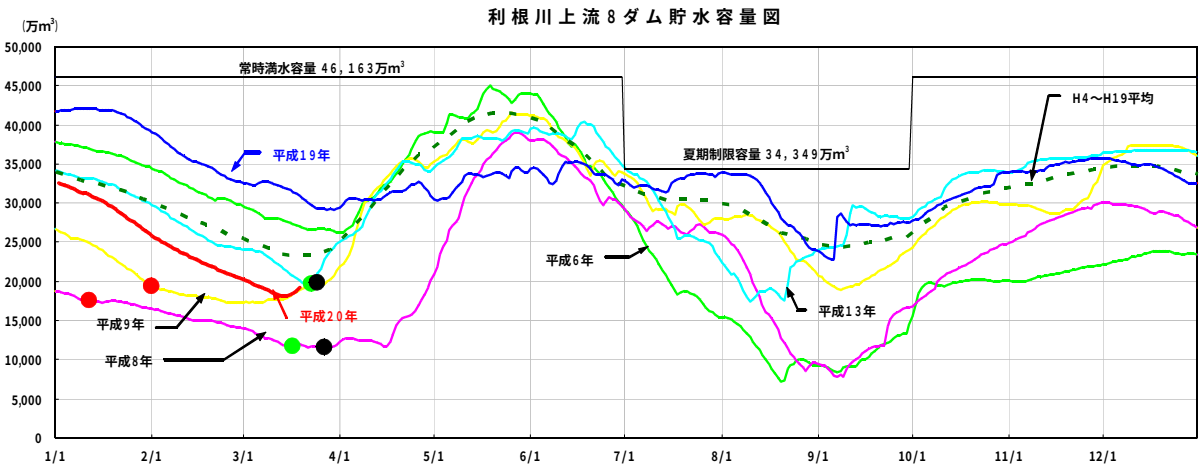
３月１３日から奥利根５ダムは貯留に転じていますが、３月１８日０時現在の貯水量は、１億９，１７６万m³、常時満水容量４億６，１６３万m³に対して４２％、平年の貯水量２億３，２７１万m³に対して８２％となっています。

表－１　利根川上流ダム群の貯水状況（平成20年3月18日 0時現在）　　単位：万m³）

諸　元	矢木沢	奈良俣	藤 原	相 俣	薗 原	下久保	草 木	渡良瀬貯水池	合 計	平年比(%)
有効容量	11,550	8,500	3,101	2,000	1,322	12,000	5,050	2,640	46,163	－
貯 水 量	2,902	2,876	1,884	1,131	357	6,591	3,435	0	19,176	23,271
水率(%)	25	34	61	57	27	55	68	0	42	82

※．有効容量は、常時満水容量。貯水率は、常時満水容量に対する貯水量の割合。

図－１



凡例　●：１０％取水制限開始　●：１０％取水制限解除　●：体制解除

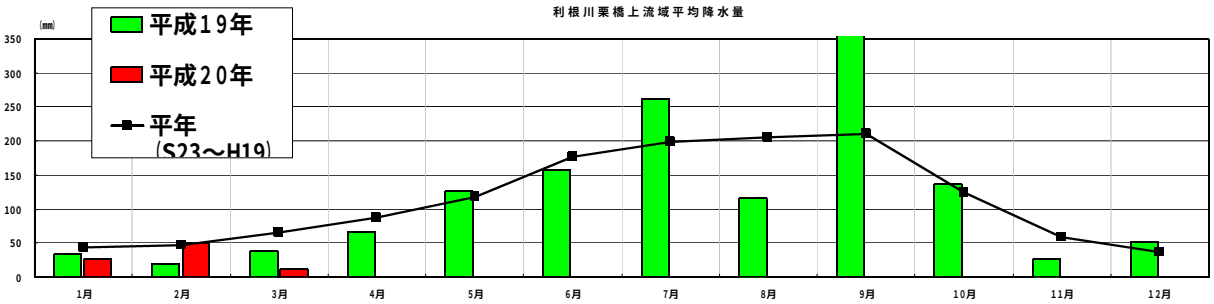
表－２　利根川栗橋上流域平均降水量（平成20年3月17日まで）　　単位(㎜)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	摘　要
平成８年	26	36	70	48	98	117	155	78	217	80	55	23	1,003	利根川冬夏渇水
平成９年	33	33	59	74	179	173	170	167	206	14	94	20	1,222	利根川冬渇水
平成19年	34	21	38	67	126	159	262	116	380	137	27	53	1,420	
平年(S23～H19)	44	47	66	87	117	176	198	206	211	124	59	37	1,372	
平成20年	27	50	12										89	
平年比(%)	61	106	18										6	

※．　利根川取水制限実施月（一時緩和含む）

※．栗橋上流域面積　8,588km²

図－２　利根川栗橋上流域平均降水量（平成20年3月17日まで）



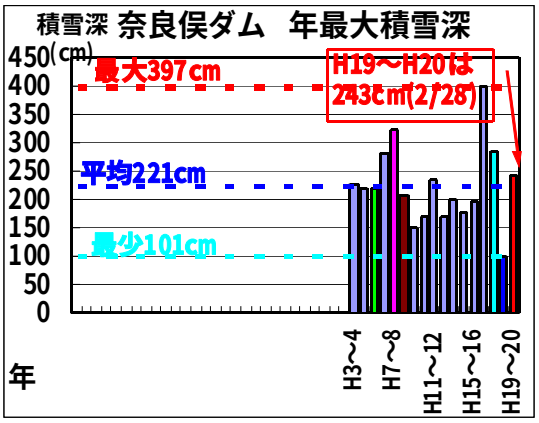
② 今年は水源地域の奈良俣ダム・尾瀬沼地点の最大積雪深は平年並以上となり、平成２０年３月１８日９時現在の積雪深は、両地点とも平年を下回っています。

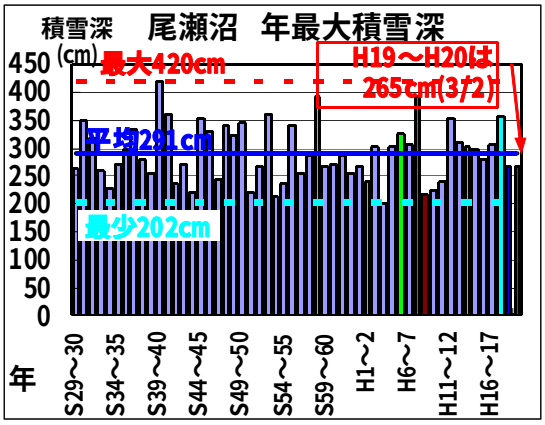
表－３　奈良俣ダム地点及び尾瀬沼地点の積雪深

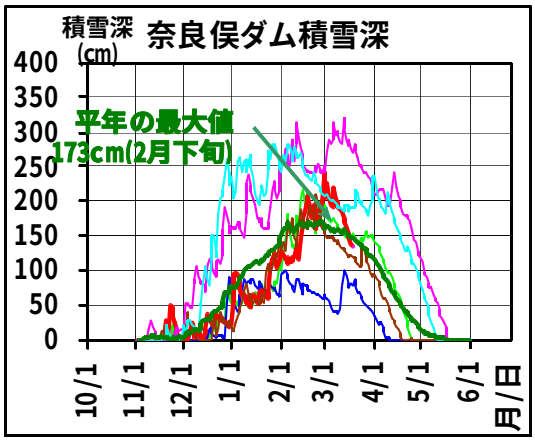
観測所名	平成20年 3月18日	※平年	平年比	H19～20 最大積雪深	平成19年 3月18日	H18～19 最大積雪深
奈良俣ダム	１３３cm	１４４cm	９２%	2月28日 243cm	83cm	3月14日101cm
尾　瀬　沼	２０２cm	２５６cm	７９%	3月 2日 265cm	229cm	3月13日266cm

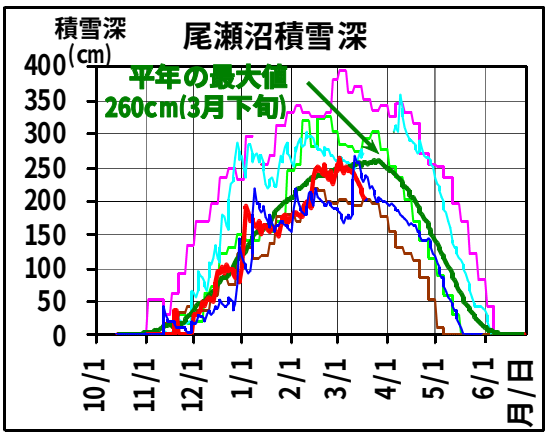
※平年 奈良俣ダムH3～H19、尾瀬沼S29～H19の３月第４半旬末の平均値

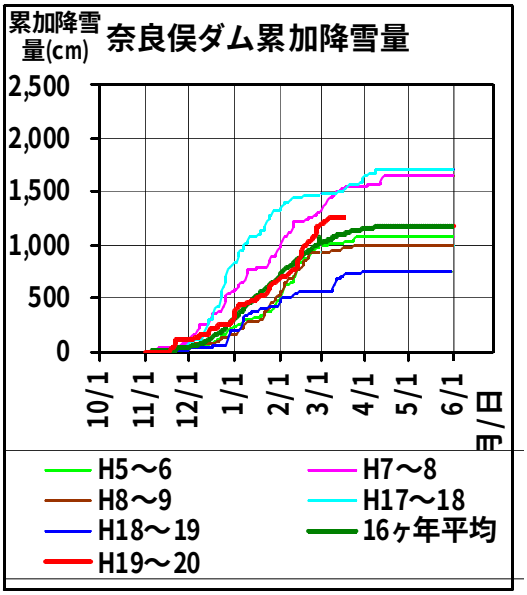
図－３　奈良俣ダム地点及び尾瀬沼地点の年最大積雪深・積雪深図











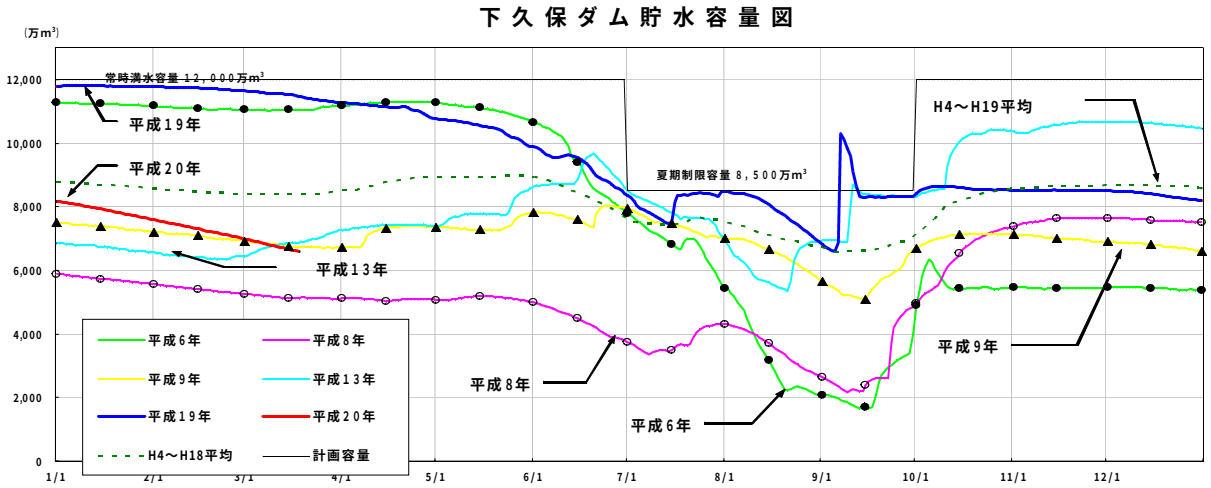
※尾瀬沼の累加降雪量は欠測があったため今年度のデータは欠測となります。

※過去のデータは半旬末の値

平成２０年３月１８日現在

③　下久保ダムは、昨年１１月からの降水量が少なく、平成２０年３月１８日現在で8ダム体制となった平成４年以降の１７年間で４番目に低い貯水量となっており、現在も補給が続いています。今後、融雪による出水は見込まれないため、今後の雨の状況によっては厳しい状況も想定されます。

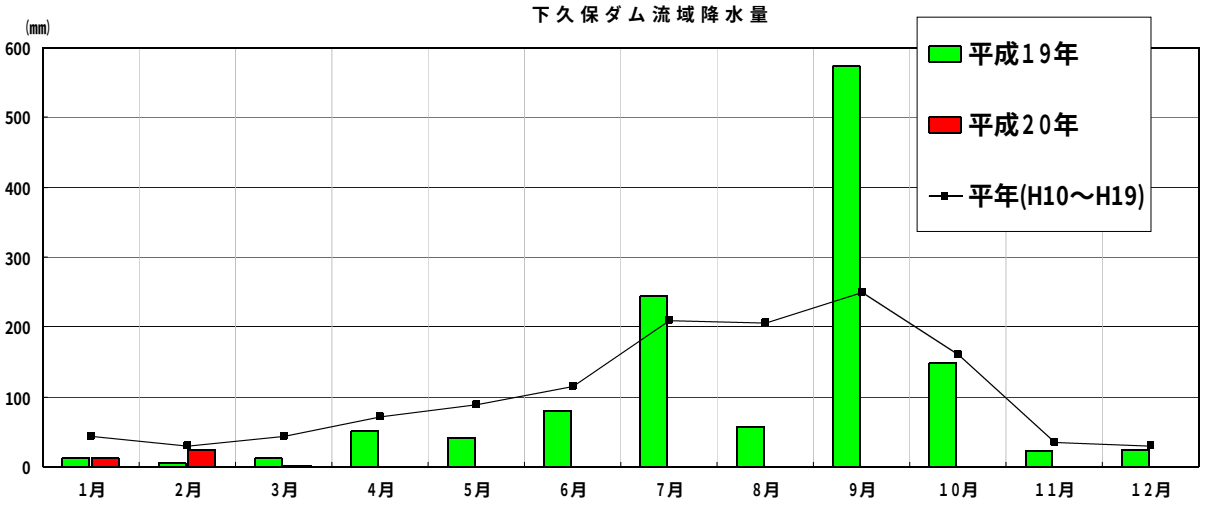
図－４　下久保ダムの貯水容量図



表－４　下久保ダム流域平均降水量（平成20年3月17日まで）　　単位(mm)

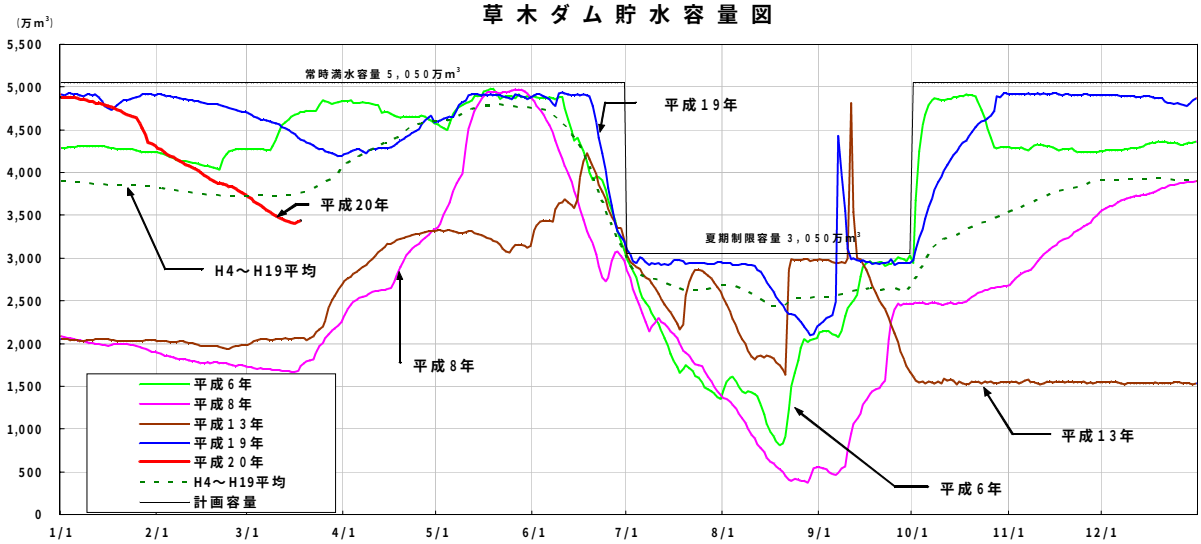
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
平成19年	13	5	13	50	41	81	245	57	573	148	22	24	1,272
平成20年	12	25	2										39
平年(H10～H19)	43	30	44	72	89	115	210	205	249	161	35	29	1,282
H20平年比	28%	83%	5%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	3%

図－５　下久保ダム流域平均降水量（平成20年3月17日まで）



④　草木ダムも、昨年１１月からの降水量が少なく、現在も補給が続いています。下久保ダム同様に融雪による出水は見込まれないため、今後の雨の状況によっては厳しい状況も想定されます。

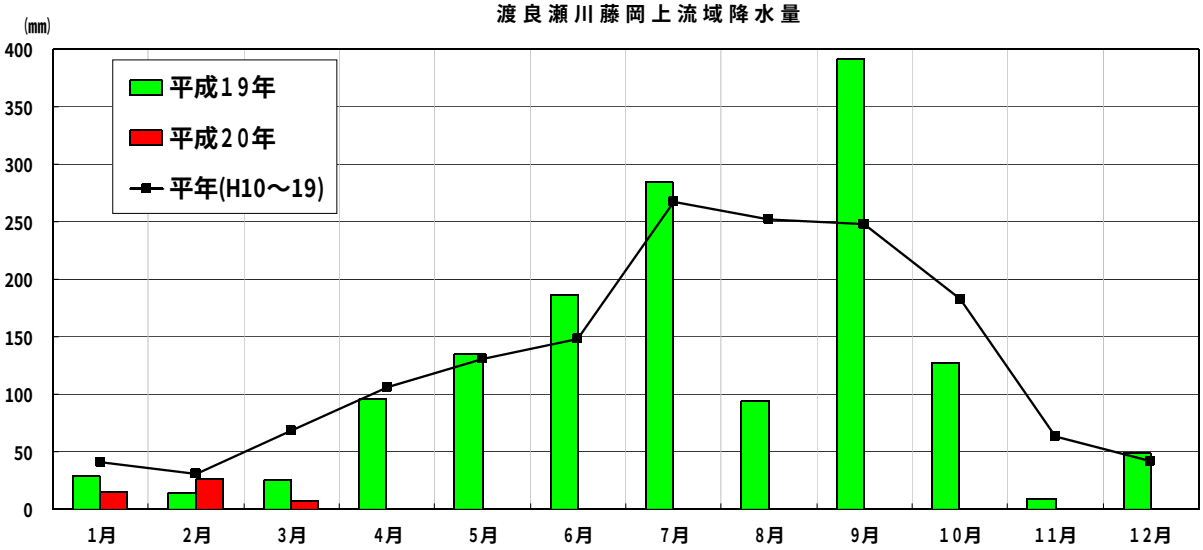
図－６　草木ダムの貯水容量図



表－５　渡良瀬川藤岡上流降水量（平成20年3月17日まで）　　単位(mm)

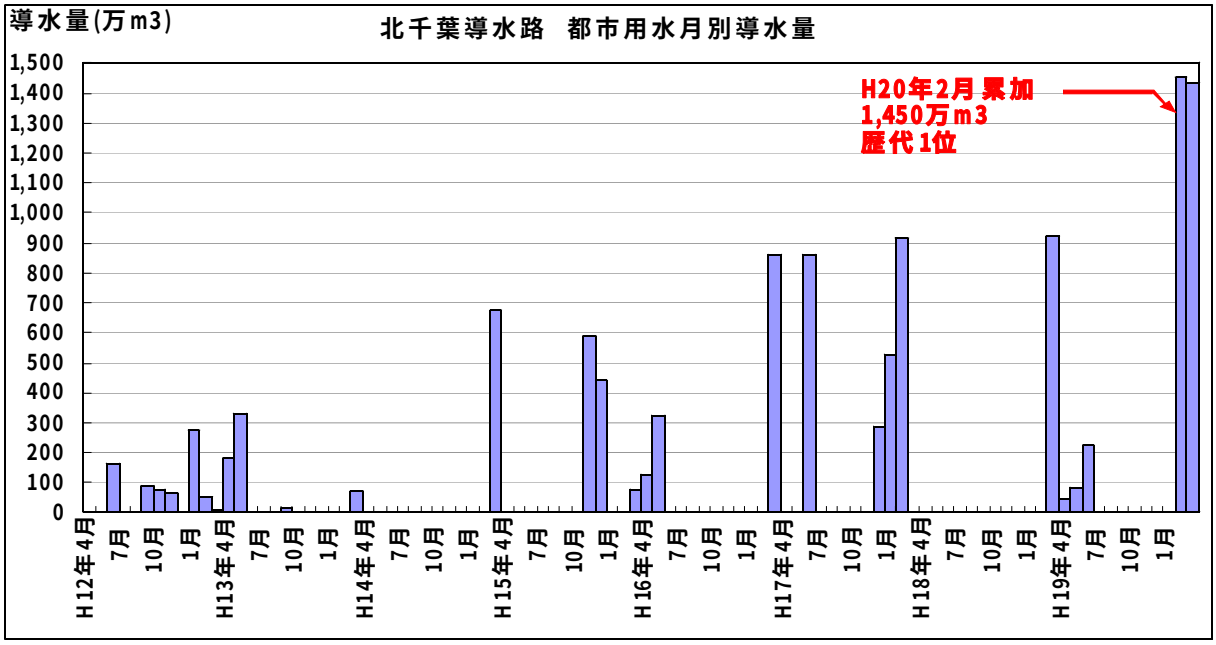
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
平成１９年	29	14	25	96	135	187	284	94	391	128	9	49	1,441
平成２０年	15	27	7										49
平年(H10～19)	41	31	68	106	131	148	267	252	248	183	63	42	1,580
平　年　比	38%	86%	10%										3%

図－７　渡良瀬川藤岡上流降水量（平成20年3月17日まで）

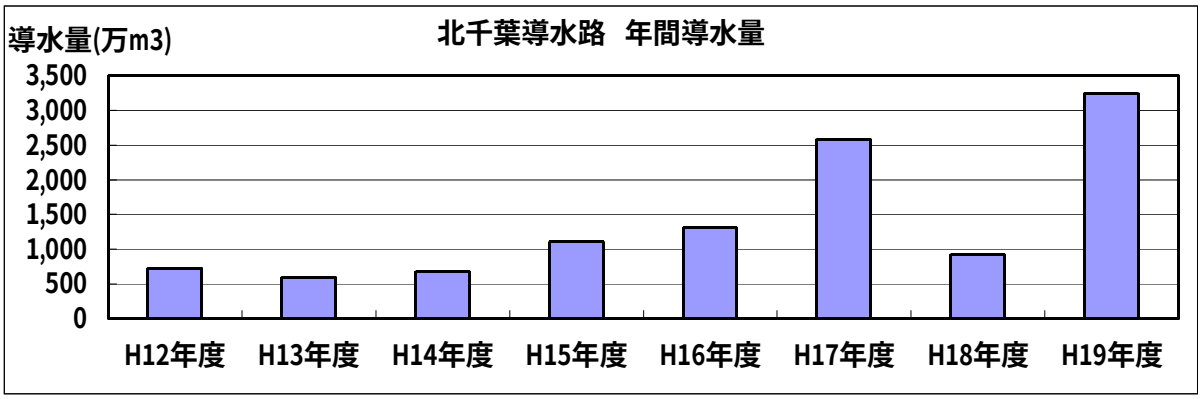


⑤　北千葉導水路は今年２月より、江戸川の流量低下時に利根川から最大１３m³/sの導水を実施した結果、上流ダム群の約６，７００万m³に相当する貯水量を温存し、江戸川の取水の安定を図っています。また、２月と３月の導水量は過去最多となっています。

図－８　北千葉導水路　月別導水量図（平成20年3月18日現在）



図－９　北千葉導水路　年間導水量図（平成20年3月18日現在）



（参考）利根川から江戸川への導水状況写真（左：１３㎥/s導水中、右：維持流量１㎥/s導水中）

2) 鬼怒川上流ダム群は平年並の貯水量

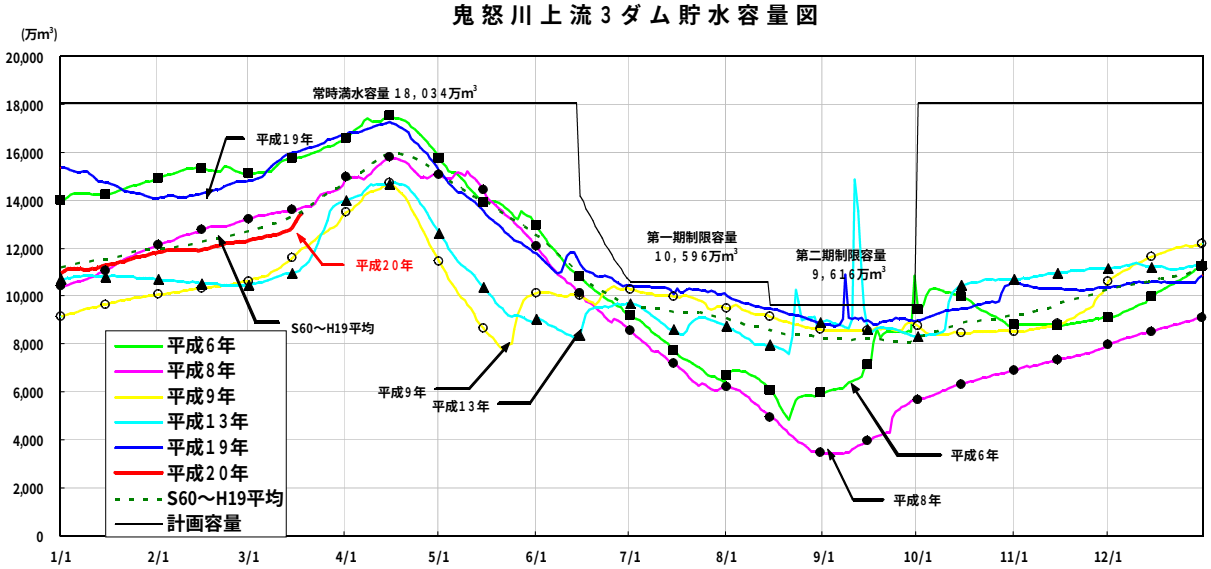
① 鬼怒川上流３ダムは、３月１８日０時現在の貯水量は、１億３，４６１万m³、常時満水容量１億８，０３４万m³に対して７５％、平年の貯水量１億３，５４６万m³に対して９９％となっています。

表－６　鬼怒川上流ダム群の貯水状況（平成20年3月18日 0時現在）　（万m³）

諸　　元	五十里	川　俣	川　治	合　計	平年比(%)	摘　要
有効容量	3,123	7,311	7,600	18,034	－	
貯 水 量	1,763	6,892	4,806	13,461	13,546	
貯水率(%)	56	94	63	75	99	

※．有効容量は、常時満水容量。貯水率は、常時満水容量に対する貯水量の割合。

図－１０

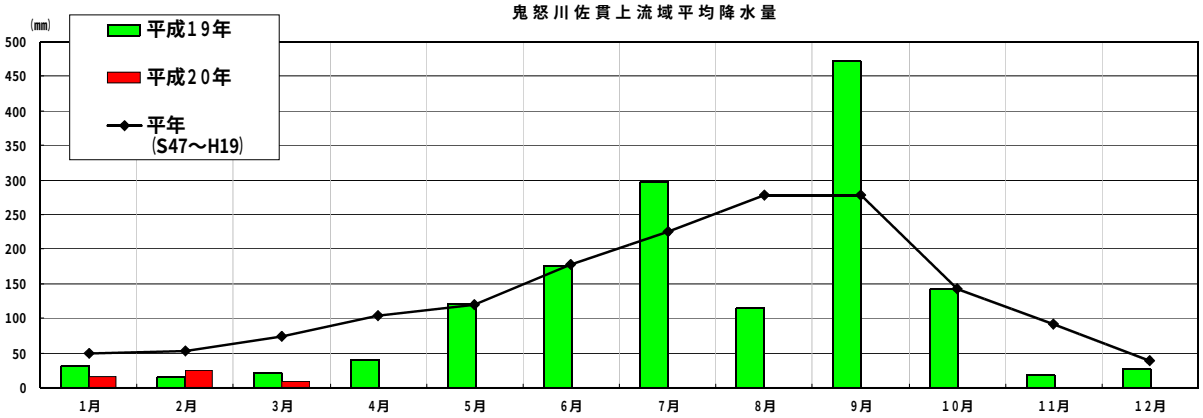


表－７　鬼怒川佐貫上流域平均降水量（平成20年3月17日まで）　単位(mm)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合　計
平成８年	46	69	79	67	113	103	176	109	211	66	65	36	1,140
平成９年	46	55	74	52	145	272	234	114	274	17	215	27	1,525
平成１９年	31	15	21	41	122	176	298	115	471	142	18	27	1,477
平年(S47－H19)	49	53	74	103	120	178	226	278	279	143	91	39	1,633
平成２０年	15	25	8										48
平年比(%)	31	47	11										3

※．鬼怒川佐貫上流域面積　940km²

図－１１　鬼怒川佐貫上流域平均降水量（平成20年3月17日まで）



2.今後の見通し及び対策

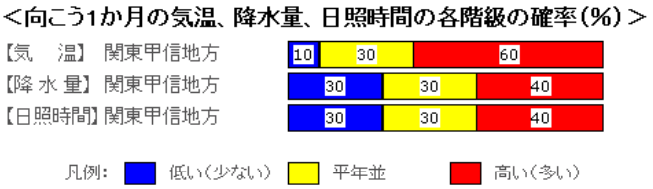
1)　見通し

①　３月１４日気象庁発表の１ヶ月予報によると、３月１５日から４月１４日の関東甲信地方の降水量については、「多い」確率が４０％となっています。

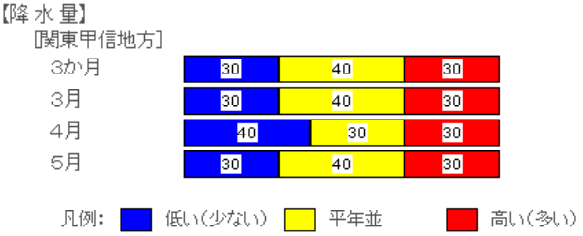
　また、２月２５日気象庁発表の３ヶ月予報によると、降水量は、「３月：平年並、４月：少ない」、「５月：平年並」となっています。

　暖候期予報によると、夏（６月～８月）の降水量は、平年並となっており、梅雨の時期（６～７月）の降水量は少ないとなっています。

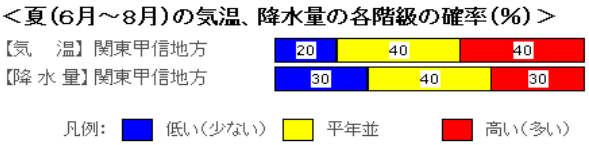
１か月予報
３月１５日から４月１４日
までの天候見通し
(平成２０年３月１４日発表)

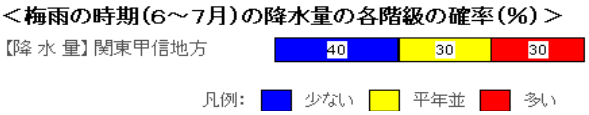


３か月予報
３月から５月までの天候見通し
(平成２０年２月２５日発表)



暖候期予報
６月から８月までの天候見通し
(平成２０年２月２５日発表)





②　利根川流域は冬期の降水量が少なく、３月１３日まで下流域の水需要を満たすためにダムに貯留した水を下流河川に補給しておりましたが、先週からの気温上昇と降雨により融雪がはじまっております。

　今年は水源地域の奈良俣ダム・尾瀬沼地点の最大積雪深が、平年並以上の積雪となっているため、例年どおり融雪期には奥利根５ダム、渡良瀬貯水池は満水となる見込みですが、融雪が少ない下久保ダム、草木ダムは、今後の降雨状況によっては、貯水量が不足することも考えられます。

　なお、渡良瀬貯水池については、補給により最低水位まで低下しており、水質改善等のため平成９年から利根川の流況を見ながら実施している「干し上げ」を行っていますが、干し上げが終わり次第、水質に配慮しながら貯留していきます。

③　鬼怒川上流３ダムは、平年並みの貯水量を確保しており、五十里、川俣ダムは４月中旬には満水となる見込みです。

2)　対策

①［利根川水系における上流ダム群の貯水量の確保］

　利根川上流ダム群、鬼怒川ダム群及び下流部の水資源開発施設においては、今後の降水状況及び下流部の水利用を踏まえたきめ細かい運用を行い、ダム貯水量の確保に極力努めます。

最近の水質事故の状況

藤原ダムのダム湖の状況（平成２０年３月１７日撮影）

平成２０年３月１９日

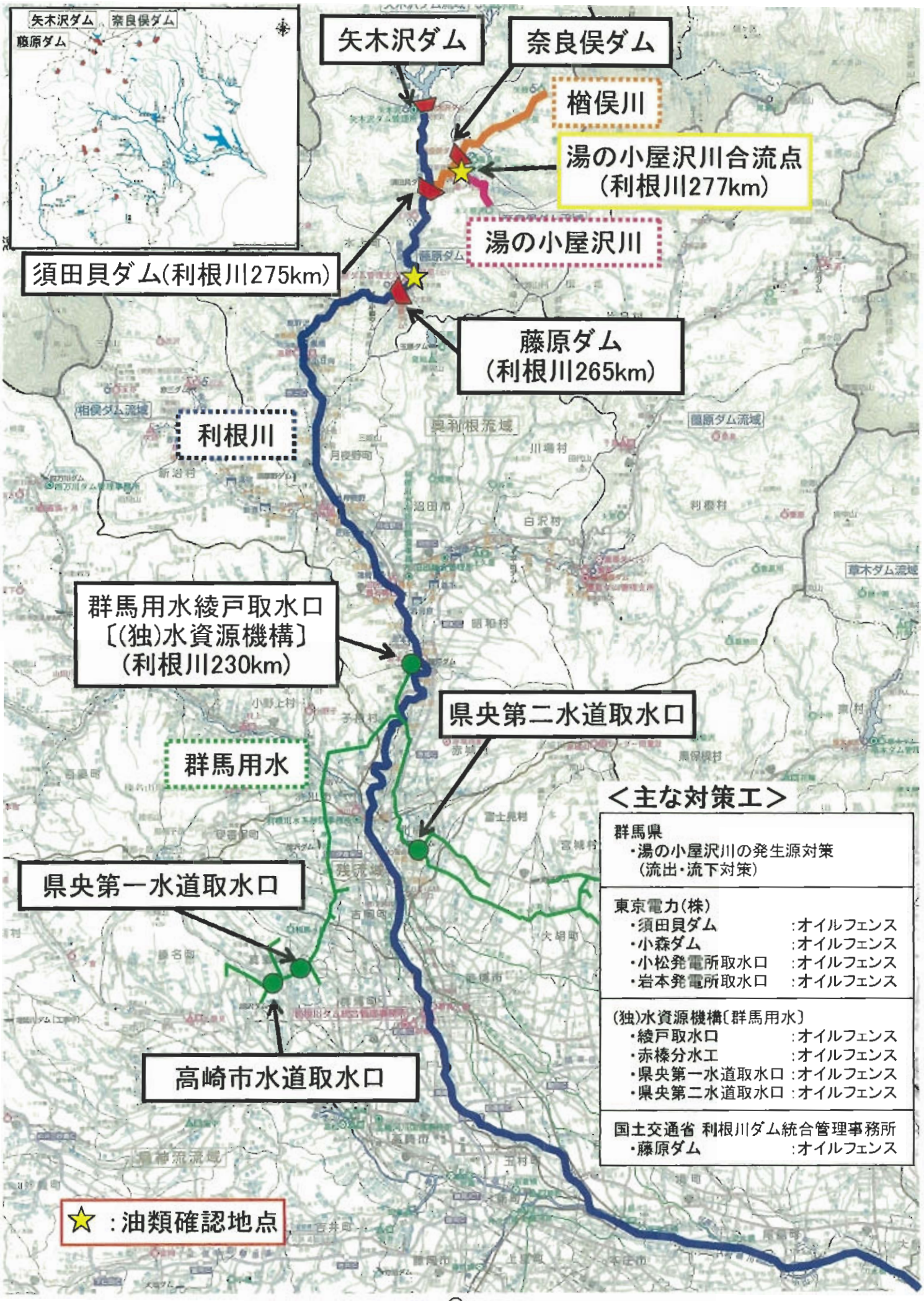
関　東　地　方　整　備　局

平成２０年３月１９日（水）

利根川上流域における油類流出水質事故の経緯について

関東地方水質汚濁対策連絡協議会事務局
関東地方整備局　河川部　河川環境課

平成８年 １１月９日	・湯の小屋沢川にて油膜を確認。
平成２０年 １月２６日	・湯の小屋沢川にて油膜を確認。原因者に対して、群馬県利根環境森林事務所及び沼田土木事務所において、現地確認及び指導を実施。
２月１２日	・群馬県県央第一水道事務所より、水に油臭ありとの通報。群馬用水取水口（綾戸ダム）においても、油臭を確認。 ・県央第一、県央第二、高崎市水道が、同日から２月１３日にかけて取水停止。
２月１４日	・関係機関合同による油臭発生源調査を実施し、流出箇所を確認。
２月１５日	・群馬県利根環境森林事務所より、原因者に対し水質汚濁防止法に基づく応急措置を命令。
２月２０日	・関東地方整備局利根川上流河川事務所等の関係機関による、第１回対策会議を実施。現状報告などの情報の共有を図る。
２月２５日	・藤原ダム湖上流において油膜の流下を確認。
２月２６日	・関東地方整備局利根川ダム統合管理事務所等の関係機関による第２回対策会議を実施。支援体制や監視体制等の連携及び情報の共有化を図る。
２月２８日	・関東地方整備局等の関係機関による対策会議を実施。
３月　３日	・関東地方整備局より群馬県に対し、発生源対策として瀬替え等の抜本的対策を実施するよう要請。
３月　６日	・関東地方整備局利根川ダム統合管理事務所等の関係機関による第３回対策会議を実施。 　綾戸ダム及び藤原ダムにおいて確認されている油膜等は、水質調査結果及び現地の状況から、湯の小屋沢川で発生している油類の流出が原因である可能性が極めて高いとの見解で一致。国及び県は原因者に指示書を発出。
３月１０日	・群馬県からの応援要請に伴い、関東地方整備局は応援対策本部を設置し、関東地方整備局が保有している流出油回収車を現地に派遣。
３月１３日	・関東地方整備局利根川ダム統合管理事務所等の関係機関による第４回対策会議を実施。


矢木沢ダム
奈良俣ダム
藤原ダム
矢木沢ダム
奈良俣ダム
楢俣川
湯の小屋沢川合流点
(利根川277km)
湯の小屋沢川
須田貝ダム(利根川275km)
藤原ダム
(利根川265km)
利根川
群馬用水綾戸取水口
〔(独)水資源機構〕
(利根川230km)
県央第二水道取水口
群馬用水
県央第一水道取水口
高崎市水道取水口
☆ :油類確認地点
<主な対策工>
群馬県
・湯の小屋沢川の発生源対策
(流出・流下対策)
東京電力(株)
・須田貝ダム :オイルフェンス
・小森ダム :オイルフェンス
・小松発電所取水口 :オイルフェンス
・岩本発電所取水口 :オイルフェンス
(独)水資源機構〔群馬用水〕
・綾戸取水口 :オイルフェンス
・赤榛分水工 :オイルフェンス
・県央第一水道取水口 :オイルフェンス
・県央第二水道取水口 :オイルフェンス
国土交通省 利根川ダム統合管理事務所
・藤原ダム :オイルフェンス

平成２０年３月１９日（水）

渡良瀬川支川秋山川における1,4-ジオキサン水質事故の経緯について

関東地方水質汚濁対策連絡協議会事務局
関東地方整備局　河川部　河川環境課

栃木県佐野市内にある下水処理場の放流口からの１，４－ジオキサン（要監視項目）の検出については、これまでに別紙のとおり関係者によって測定が行われております。

これまでの経緯は下記のとおりです。

平成２０年
３月１２日　・東京都水道局より渡良瀬川支川秋山川の浄化センター放流口において、高濃度の１，４－ジオキサンが観測される。

３月１４日　・栃木県環境森林部環境保全課が、栃木県による１，４－ジオキサンの水質調査結果を公表。

３月１４日　・関東地方水質汚濁対策連絡協議会として、１，４－ジオキサンの情報を関係機関に通知。

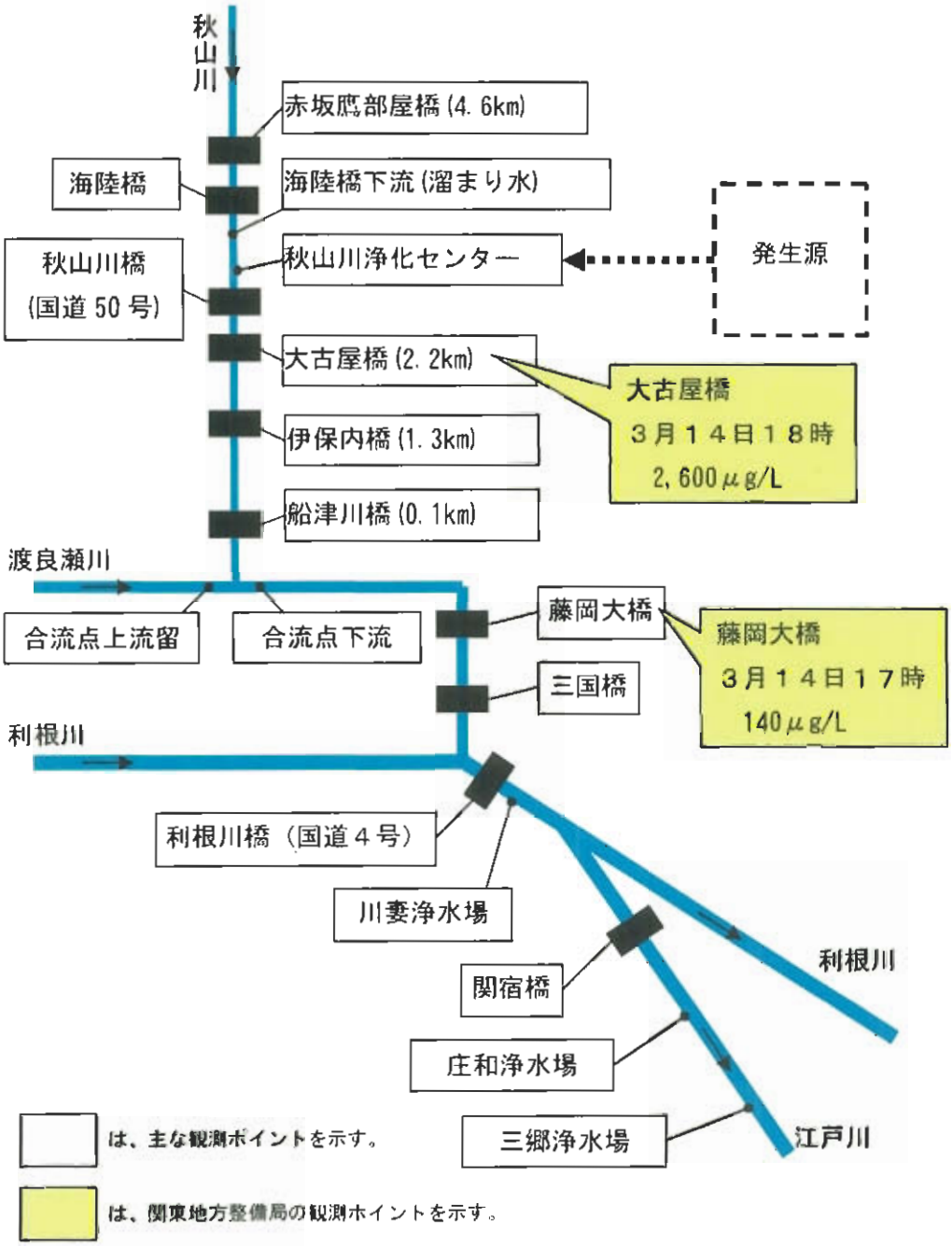
３月１４日　・関東地方整備局渡良瀬河川事務所と利根川上流河川事務所が現地の水質調査を実施。

３月１５日　・関係機関による水質調査が増強される。

※１，４－ジオキサンは、発がん性について、ラットに 200 mg/L 以上の濃度の 1,4-ジオキサンを 104 週間、飲み水に混ぜて与えた実験では、肝細胞腫瘍の発生率の増加が認められています。国際がん研究機関（IARC）は 1,4-ジオキサンをグループ 2B（人に対して発がん性があるかもしれない）に分類しています。水道水質基準や水質要監視項目の指針値は、肝細胞腫瘍の増加が認められたラットの実験結果に基づいて設定されています。

【出典：化学物質ファクトシート 2006 年版　環境省】

※１，４－ジオキサンについて

・水質要監視項目（指針値）：50μg/L
・水道水質基準項目：50μg/L

関東地方整備局 1, 4-ジオキサン測定地点